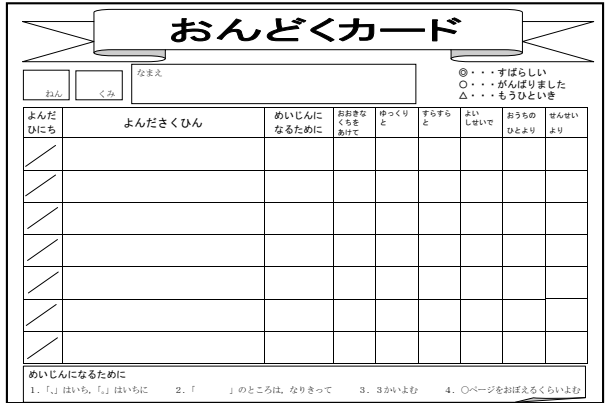
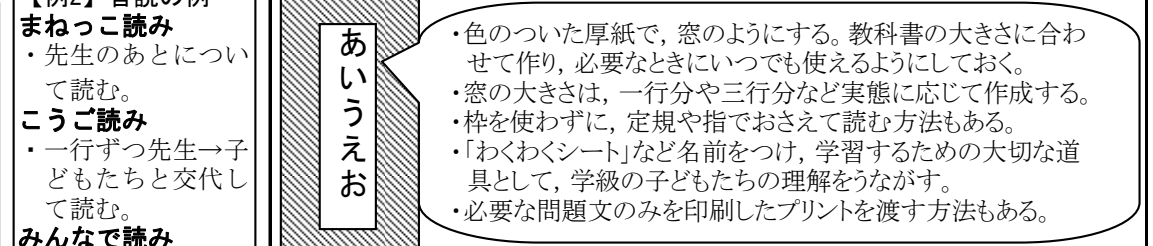
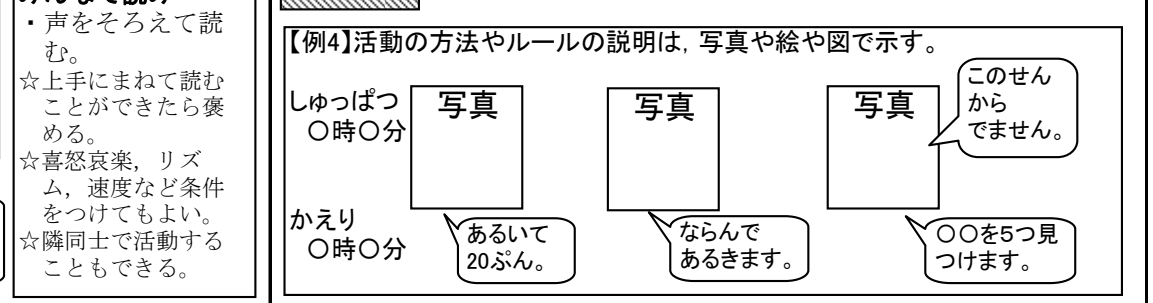


実態把握観点表に対応した支援方法の具体例

個別の指導計画 支援方法の具体例(学習面での課題)

指導者の姿勢	具体的な支援	支援の例	
聞くことへの支援	注意集中・多動性・衝動性の支援方法の具体例参照	【例1】目標をもって取り組める音読カード	
話すことへの支援	情緒の安定・対人関係・社会性の支援方法の具体例参照	【例2】音読の例	
読むことへの支援	事前に家庭に伝えておき、練習できるようにする。【例1】	 <p>・具体的なめあてがもてるようにする。 ・実態に応じて読む量を調節できるようにする。 ・家庭と連携をとり、「できる目標」を設定する。</p>	<p>【例3】ほかの部分をかかして、読みやすくする方法</p>  <p>・色のついた厚紙で、窓のようにする。教科書の大きさに合わせて作り、必要なときにいつでも使えるようにしておく。 ・窓の大きさは、一行分や三行分など実態に応じて作成する。 ・枠を使わずに、定規や指でおさえて読む方法もある。 ・「わくわくシート」など名前をつけ、学習するための大切な道具として、学級の子どものための理解をうながす。 ・必要な問題文のみを印刷したプリントを渡す方法もある。</p> <p>【例4】活動の方法やルールの説明は、写真や絵や図で示す。</p> 
	読む文字を指で追うようにする。【例3】		
	行頭の文字を指で追うようにする。		
	行頭に付箋紙を貼り、ずらしていく。		
各学習スキル	文章の行間に薄い色で線を引く。	【例5】ノートを書くときの支援例	【例6】板書を書き写すときの支援例
文章の行間に薄い色で線を引く。	単語のまとまりごとに/を引く。	【例7】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例8】自分の力で文章を書き進めるための支援例
「分ち書き」にする。	読みにくいところにラインを引く。	【例9】テーマ日記による書き方を学ぶ例	【例10】算数の文章問題の支援例
他の部分を隠す。【例3】	読み仮名を多く打つ。	【例11】立方体などでの位置を確かめる支援例	【例12】使いやすい道具を選ぶ支援例
読み仮名を多く打つ。	字体やサイズを変える。	【例13】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例14】漢字を書く(覚える)ときの支援例
文章の行間をあけたものを用意する。	文章を拡大コピーして黒板に貼り、指示棒で追っていく。	【例15】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例16】漢字を書く(覚える)ときの支援例
文章を拡大コピーして黒板に貼り、指示棒で追っていく。	指導者の範読に合わせて読む。【例2】	【例17】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例18】漢字を書く(覚える)ときの支援例
絵、写真、図、動作などを利用して内容が理解できるようにする。【例4】	板書の文字を大きめに書く。	【例19】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例20】漢字を書く(覚える)ときの支援例
書きやすいペンや鉛筆、よく消える消しゴムを使うようにする。	濃い鉛筆を使ったり、鉛筆にグリップをつけたりして書きやすくする。	【例21】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例22】漢字を書く(覚える)ときの支援例
罫線だけのノートではなく、マス目のノートを使う。【例5】	大きいマス目のノートを使う。	【例23】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例24】漢字を書く(覚える)ときの支援例
文作りなどのプリントはマス目のものか罫線のものか選択できるようにする。	事前に一画目を記入してやる。	【例25】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例26】漢字を書く(覚える)ときの支援例
一文字用の小黒板の4つのマス目に番号をつけておき、どのマス目から書き始めるなどを示す。	練習する字数を減らして、ていねいに書けるようにするなど分量や書き方にバリエーションをつける。	【例27】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例28】漢字を書く(覚える)ときの支援例
コンピュータの漢字変換を使い、正しい漢字が選択できるようにする。	漢字の構成要素(へんやつくり)を色分けして示したり、部首の意味から理解できるようにしたりする。【例7】	【例29】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例30】漢字を書く(覚える)ときの支援例
板書をノートに写す場合は、書く順番を決めておいたり、書く場所に目印をつけたりする。【例5,6】	子どもが書き終わった行から消していく。	【例31】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例32】漢字を書く(覚える)ときの支援例
テーマについてあらかじめ家庭に伝えておき、事前に考えられるようにする。【例8,9】	テーマについてあらかじめ大きな流れを提示し、何を書くのかを明確にする。【例9】	【例33】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例34】漢字を書く(覚える)ときの支援例
字数を少なめにするなど心理的な不安を減らす。	写真など作文を書くときの手がかりを用意する。【例8】	【例35】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例36】漢字を書く(覚える)ときの支援例
写真など作文を書くときの手がかりを用意する。【例8】	絵日記のように文章だけでなく手がかりになるものを加える。	【例37】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例38】漢字を書く(覚える)ときの支援例
ワープロ機能を使用する。	書きたいことを話し、録音したものを指導者が(または自分で)筆記し、それを書き写すようにする。	【例39】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例40】漢字を書く(覚える)ときの支援例
書きたいことを話し、録音したものを指導者が(または自分で)筆記し、それを書き写すようにする。	視覚的な手がかり、または具体物を使って1要素ずつ理解できるようにする。【例10】	【例41】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例42】漢字を書く(覚える)ときの支援例
問題文を視覚的な補助手段を使って再構成する。【例10】	内容を整理して短くする。【例10】	【例43】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例44】漢字を書く(覚える)ときの支援例
キーになる言葉にアンダーラインを引く。	マス目のあるノートを使い、問題を写したり計算をするときの位取りをわかりやすくする。【例5】	【例45】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例46】漢字を書く(覚える)ときの支援例
形の特徴や位置の関係など、なるべく言葉で説明を加えるようにする。【例11】	形の特徴や位置の関係など、なるべく言葉で説明を加えるようにする。【例11】	【例47】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例48】漢字を書く(覚える)ときの支援例
定規やコンパスは使いやすい大きさの物、見えやすい目盛りの物を使用するようにする。【例12】	定規やコンパスは使いやすい大きさの物、見えやすい目盛りの物を使用するようにする。【例12】	【例49】漢字を書く(覚える)ときの支援例	【例50】漢字を書く(覚える)ときの支援例


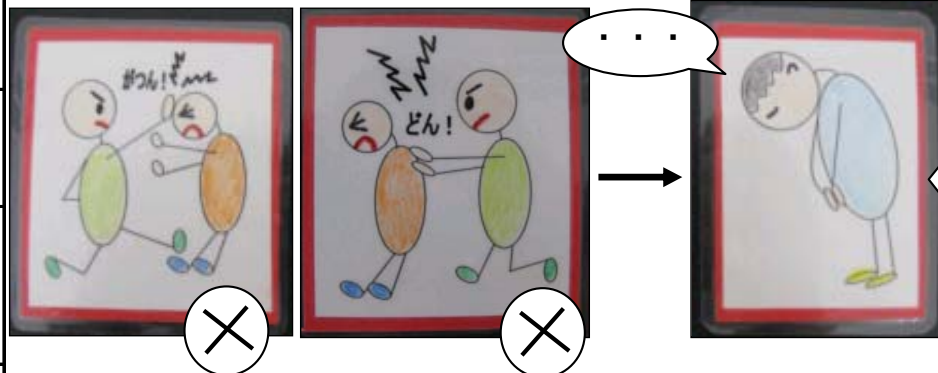
個別の指導計画 支援方法の具体例(人とのコミュニケーションでの課題1)

支援例 14, 17, 19, 20については、写真やカード例をファイルで載せています。

指導者の姿勢	具体的な支援	支援の例																																						
<p>ルールの確認をする</p>	<p>授業の始めに発表や話し合いのルールを決め、確認する。(声のボリュームなど、視覚的にわかるように提示しておく) 【例13, 14】</p>	<p>【例13】声のボリューム</p> 	<p>【例14】聞き方、話し方の約束</p> <p>ききかためいじん</p> <p>お え う い あ</p> <p>おしまいまで</p> <p>えがおで</p> <p>うなずきながら</p> <p>いっしょうけんめい</p> <p>あいてをみて</p>	<p>【例15】支援カード</p> <p>※ゲームにまけても</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おこりません。</li> <li>・なきません。</li> <li>・ものをなげません。</li> </ul> <p>〇まあ、いいか。</p> <p>〇こんなこともあ</p> <p>〇つぎ、がんばろう!</p>																																				
	<p>個別に約束を決めておく。 (例: 1時間に3回まで発言できる, 3枚のカードを持たせておくなど)</p>	<p>※数字を動物の大きさで示してもよい。 ※どのような声がふさわしいボリュームか見本を示す。</p>	<p>見本となる写真や挿絵を掲示</p>	<p>☆話すときの約束ですか。」「はい、どうぞ。」</p>																																				
	<p>順番が来るまでの流れを説明し、並ぶ位置を視覚的に示す。</p>	<p>「もう少しで順番が来るよ。」「次だよ。」などと声を掛けながら、順番を待つ練習を指導者と一緒にする。</p>	<p>☆聞く姿勢の指導</p> <p>☆書く姿勢の指導</p> <p>☆手は、おひざ</p> <p>☆足は、おひざ</p> <p>☆背筋は、まっすぐ</p> <p>☆姿勢は、まっすぐ</p> <p>☆視線は、まっすぐ</p> <p>☆呼吸は、まっすぐ</p>	<p>☆話すときの約束ですか。」「はい、どうぞ。」</p>																																				
	<p>勝ち負けのあるゲームなどをたくさん経験し、負けることに慣れる。【例15】</p>																																							
<p>情緒の安定・対人関係・社会性・こだわり</p> <p>グループ活動を活性化</p>	<p>人間関係や活動の内容を考慮し、グループ作りをするようにする。</p>	<p>【例16】活動前に提示する資料の例</p> <p>グループで〇〇の量をはかろう</p> <p>やり方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①準備する。</li> <li>②役割を決める。</li> <li>③〇〇を使って、調べる。</li> <li>④記録をつける。</li> <li>⑤ちがうものを調べる。</li> <li>⑥〇時〇分になったらかたづける。</li> </ol> <p>写真・絵</p> <p>図・表・絵</p> <p>やくそく</p>	<p>【例17】相手と調子を合わせる活動を授業で取り入れる例</p> <p>〇音楽科の授業で(リズムうち)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組やグループでリズムうちをする。</li> <li>・音楽に合わせて、リズムうちをする。</li> <li>・リズムをリレーのようにつなぐ。</li> <li>・手拍子や、手とひざ、足ぶみ、カスタネットなどの楽器でリズムうちをする。</li> </ul> <p>丸いカードをたくさん作っておくと、いろいろな拍子のリズムをいつでも簡単に提示することができる。●を手やカスタネットの絵にしてもよい。</p>	<p>【例18】活躍できる場面を作るための支援例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあることや得意なことが活かされる単元構成にする。</li> <li>・「〇〇名人になるために〜しよう。」</li> <li>・「〜して、〇〇発表会をしよう。」</li> <li>・全体の前で発表したり、小グループで交流したりする前に、自信をもてるように支援をする。</li> <li>・（「なるほど。どうやったのか教えてくれるかな。」など、指導者と話すことで、整理ができ、自信をもてるようにする。）</li> <li>・指導者が、よさを見つけ学級に広める。</li> </ul>																																				
	<p>活動内容をはっきりさせ、それが視覚的にわかるように提示する。【例16】</p>	<p>〇国語科の授業で(音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組で声をそろえて読む。</li> <li>・二人で役割を決めて読む。</li> <li>・数人で動作化をする。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>																																				
	<p>指導者が適宜グループに入って適切な支援を行う。</p>	<p>〇国語科の授業で(音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組で声をそろえて読む。</li> <li>・二人で役割を決めて読む。</li> <li>・数人で動作化をする。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>																																				
	<p>相手と調子を合わせる活動を多く取り入れ、相手に合わせることや協力することが必要なことを理解できるようにする。(二人で物を運ぶ、二人三脚、同じペースで走るなど)【例17】</p>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>	<p>〇体育科など体を動かす授業で(二人〜三人で行う体ならしを取り入れる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの「大波・小波」などでリズムをとって一緒にとぶ。</li> <li>・いろいろなコースをつくって、「どんじゃんけん」をする。</li> <li>・ボールを受けたり投げたりする活動を取り入れた簡単なゲームをする。</li> <li>・二人で背中を合わせて、一緒に立ったり、歩いたりする。</li> <li>・マットの上で、手をつないで横に回る。</li> </ul>																																				
<p>言葉で伝える場を設定</p>	<p>一人一人が発表できる機会を保障する。(二人組→グループ→全体など)【例18, 20】</p>	<p>【例19】黒板に、話すポイントをキーワードやマークで示す例</p> <p>写真や絵など</p> <p>できそうなこと</p> <p>ようす</p> <p>おおきさ</p> <p>みつけたばしょ</p> <p>なまえ</p> <p>☆たいせつなこと</p> <p>〜について</p> <p>しようかいしよう</p> <p>様子</p> <p>様子をくわしくするヒント</p>	<p>【例20】話すときの話型の例</p> <p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>																																					
	<p>話したいことが伝えられるようにいくつかの選択肢を示したり、実物や写真や絵などを用意したりする。【例19】</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>																																				
	<p>あらかじめ話す内容を書いてから発表できるようにする。</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>																																				
	<p>「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」という疑問詞や話型を提示し、それに合わせて話ができるようにする。【例20】</p>	<p>スピーチなどで出来事を話すとき</p> <p>算数科などで考えを発表するとき</p> <p>やりかたをせつめいしよう</p> <p>まず</p> <p>つぎに</p> <p>だから</p> <p>答えは〜です。</p> <p>そのわけは、〜</p> <p>黒板にキーワードを示す。自分の考えをノートに書いたら、この話型にそって二人組やグループ、全体で発表する。</p>	<p>【例21】学習計画表に自己評価の項目を取り入れる例</p> <p>その時間の学習内容の理解について、自己評価をする。(指導者が点検することにより、がんばったことを認めたり、評価が低い場合、その原因を探り、手だてをうったりすることにつなぐことができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習すること</th> <th>ふりかえり</th> <th>かんそう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈相互評価の例〉作品を読み合ったり、発表を聞いたりした後などに、カードによいところを書き込み、交換する。付箋紙に書くと、教室の後ろに掲示した作品にも貼ることができる。指導者が、評価する視点を挙げてから書くようにすると具体的な内容になる。</p>	学習すること	ふりかえり	かんそう	1.	◎ ○ △		2.	◎ ○ △		3.	◎ ○ △		<p>【例21】学習計画表に自己評価の項目を取り入れる例</p> <p>その時間の学習内容の理解について、自己評価をする。(指導者が点検することにより、がんばったことを認めたり、評価が低い場合、その原因を探り、手だてをうったりすることにつなぐことができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習すること</th> <th>ふりかえり</th> <th>かんそう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈相互評価の例〉作品を読み合ったり、発表を聞いたりした後などに、カードによいところを書き込み、交換する。付箋紙に書くと、教室の後ろに掲示した作品にも貼ることができる。指導者が、評価する視点を挙げてから書くようにすると具体的な内容になる。</p>	学習すること	ふりかえり	かんそう	1.	◎ ○ △		2.	◎ ○ △		3.	◎ ○ △													
学習すること	ふりかえり	かんそう																																						
1.	◎ ○ △																																							
2.	◎ ○ △																																							
3.	◎ ○ △																																							
学習すること	ふりかえり	かんそう																																						
1.	◎ ○ △																																							
2.	◎ ○ △																																							
3.	◎ ○ △																																							
<p>認め合う場を設定</p>	<p>相互評価・自己評価を取り入れる。(努力や成長を確認し合える機会を設定する。) 【例21】</p> <p>子どもの特性を考えて役割分担を考える。</p>	<p>【例21】学習計画表に自己評価の項目を取り入れる例</p> <p>その時間の学習内容の理解について、自己評価をする。(指導者が点検することにより、がんばったことを認めたり、評価が低い場合、その原因を探り、手だてをうったりすることにつなぐことができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習すること</th> <th>ふりかえり</th> <th>かんそう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈相互評価の例〉作品を読み合ったり、発表を聞いたりした後などに、カードによいところを書き込み、交換する。付箋紙に書くと、教室の後ろに掲示した作品にも貼ることができる。指導者が、評価する視点を挙げてから書くようにすると具体的な内容になる。</p>	学習すること	ふりかえり	かんそう	1.	◎ ○ △		2.	◎ ○ △		3.	◎ ○ △		<p>【例21】学習計画表に自己評価の項目を取り入れる例</p> <p>その時間の学習内容の理解について、自己評価をする。(指導者が点検することにより、がんばったことを認めたり、評価が低い場合、その原因を探り、手だてをうったりすることにつなぐことができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習すること</th> <th>ふりかえり</th> <th>かんそう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈相互評価の例〉作品を読み合ったり、発表を聞いたりした後などに、カードによいところを書き込み、交換する。付箋紙に書くと、教室の後ろに掲示した作品にも貼ることができる。指導者が、評価する視点を挙げてから書くようにすると具体的な内容になる。</p>	学習すること	ふりかえり	かんそう	1.	◎ ○ △		2.	◎ ○ △		3.	◎ ○ △		<p>【例21】学習計画表に自己評価の項目を取り入れる例</p> <p>その時間の学習内容の理解について、自己評価をする。(指導者が点検することにより、がんばったことを認めたり、評価が低い場合、その原因を探り、手だてをうったりすることにつなぐことができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習すること</th> <th>ふりかえり</th> <th>かんそう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>◎ ○ △</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈相互評価の例〉作品を読み合ったり、発表を聞いたりした後などに、カードによいところを書き込み、交換する。付箋紙に書くと、教室の後ろに掲示した作品にも貼ることができる。指導者が、評価する視点を挙げてから書くようにすると具体的な内容になる。</p>	学習すること	ふりかえり	かんそう	1.	◎ ○ △		2.	◎ ○ △		3.	◎ ○ △	
学習すること	ふりかえり	かんそう																																						
1.	◎ ○ △																																							
2.	◎ ○ △																																							
3.	◎ ○ △																																							
学習すること	ふりかえり	かんそう																																						
1.	◎ ○ △																																							
2.	◎ ○ △																																							
3.	◎ ○ △																																							
学習すること	ふりかえり	かんそう																																						
1.	◎ ○ △																																							
2.	◎ ○ △																																							
3.	◎ ○ △																																							

個別の指導計画 支援方法の具体例(人とのコミュニケーションでの課題2)

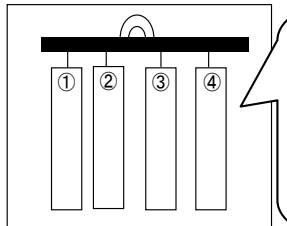
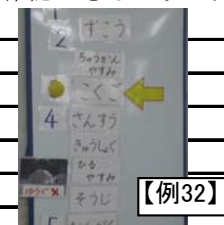
支援例 22, 23, 26 については、カード例をファイルで載せています。

指導者の姿勢	具体的な支援	支援の例											
<p>スキルを身につけることができるようにする</p>	<p>他人の気をひくためにしているような行動には反応せず、場に応じて言葉で伝える言い方を指導する。(相手の表情や気持ちが読み取れないときは、絵カードなどで「今は怒っている。」などと示して理解を助けるようにする。【例22】</p>	<p>【例22】表情や気持ちを表すカードの例</p>											
	<p>問題行動への対処の仕方などをあらかじめ決めておき、一貫した態度や行動をとる。</p>	<p>【例23】「痛み」の度合いを表情や数字で表したカードの例</p> 											
	<p>相手の言葉の意味や意図をそれとなく解説するなどして、相手の気持ちを考える態度を養う。【例22】</p>	<p>【例24】状況を理解し、行動の仕方の手がかりとなるカードの例</p> 											
	<p>このような場面ではこのような話し方をするということを、実際の場面で繰り返し指導する。【例24, 25】</p>	<p>・自分の痛みを相手に伝える場合や、相手の痛みを知る場合の両方に使うことができる。</p>											
<p>情緒の安定・対人関係・社会性・こだわり</p>	<p>会話を録音して自分の話し方を聞くなど意識できる場面を作り、その中で他の人との会話を通して同じ点や違う点に気づくことができるようにする。</p>	<p>カードにしておくと、次のようなときに活用できる。</p>											
	<p>子どもなりの理由で友だちに攻撃的な態度をとったりしたときには、子どもの言い分は共感をもってよく聞いた上で、不適切な行動はそれとは別に悪いこととして理解できるようにする。叩くなどしたときは、叩かれた人の身になって「痛い」ことを理解し、謝罪できるようにする。【例24】</p>	<p>・「叩かない」「押さない」などやってはいけない約束事確かめる。                  ・どのようなことがあったのかを挿絵で振り返る。                  ・すぐにあやまることが、どうしてもできないときは、カードを指し示すなどして、相手とのコミュニケーションを必ずとるように指導する。                  ・カードを使う場合も、言葉で相手に伝えることが大切であることを前提に指導する。                  ・行動化できたときは、見逃すことのないように指導者が褒めるようにし、「正しい行動」の仕方を具体的に理解できるようにする。</p>											
	<p>感情がコントロールできないときにはどうすればよいかを伝える。(感情をコントロールできなくなりそうときはその場を離れる、困ったときは周囲の助けを呼ぶ、思いを伝えるためのカードを使うなど) 【例27】</p>	<p>【例25】どのような場面に、どのような言葉を使うことがふさわしいかを考える例</p>											
	<p>落ち着くことができるような場所(保健室・校長室)や自然環境(小動物・花壇・池など)を把握し、約束事を決めて自分で行けるようにする。【例27】</p>	<p>「ごめんなさい」「いいよ」「ありがとう」「どうぞ」などの言葉を、学級で日常的に使えるように指導する。</p> <p>・どのような場面で、どのような言葉を言われると「うれしい」のか、また、「いやな気持ち」になるのかを話し合う機会を設定する。「ぼかぼかことば」を教室に掲示し、指導者が、子どもが使ったよい言葉を積極的に評価したり、「終わりの会」などで、発表し合ったりして、定着を図る。                  ・周りの子どもたちがお手本となるようにする。                  ・どのようなときに、「ありがとう」「ごめんなさい」を言うのか、練習することが必要な場合もある。練習したことが、実際の場面で、行動化できたときに、指導者が適切に評価することを積み重ねる。</p>											
<p>自分で感情のコントロールができるようにする</p>	<p>感情がコントロールできないとき(パニック時)は、危険を回避してそっと見守るようにし(たくさんの言葉掛けをすると逆効果になることが多い)、場合によってはその場所・場面から離す(タイムアウト)ようにする。(自分からタイムアウトできるようにするとよい。) 【例27】</p>	<p>【例26 (色々な項目に関わって)】行動の目標を立て、自己評価できるカードの例</p>											
	<p>安定してから受容的に話を聞き(因果関係を図で示すなどして視覚的に整理したり、もう一度その場の状況を再現してロールプレイをしたりしながら)、原因となった状況を振り返り、自分の行動について考えられるようにする。【例24】</p>	<p>【例27】約束事をするカードの例</p>											
	<p>衝動的な行動に陥る前の子どものサインを見つけるようにする。</p>	<p>行く場所</p> <p>やくそく</p> <p>・( )ができたら、もどります。                  ・できたら、先生に見せます。</p> <p>( )の時間にもどります。</p>											
	<p>ちょっと考えて(自分をコントロールして)から行動できるようにする。(十数えてから行動に移す。深呼吸、伸びをする。「落ち着こう」「負けても怒らない」「ゆっくりやろう」など自分に話しかけることで気持ちを落ち着かせる。)</p>	<p>気持ちが落ち着かず、どうしてもその場所にいることが難しい場合がある。その場合、どうすれば落ち着くのかを、指導者と一緒に考え、自分で調節できるように指導する。</p> <p>・子どもとの合図を決めておく。                  例：筆箱の中に、黄色のカードを入れておき、どうしても気持ちが落ち着かなくなったときは、それを指導者に見せることを約束しておく。                  ・場所を離れる場合は、居場所、目的、戻る時間など、約束事をしてから離れることを決めておく。                  ・カードを提示したり、教室から離れたりすることを、少しずつ減らしていくことができるように声をかける。</p>											
<p>こだわりへの理解ができるようにする</p>	<p>好きなものから離れないときは、場所や時間を決めて行ってよいときと行ってはいけないときを区別して約束を決めるようにする。【例27】</p>	<p>今週のめあて</p> <p>😊...ばっちり! 😊...できるように なってきたぞ! 😞...つぎこそ がんばるぞ!</p> <table border="1" data-bbox="1246 1680 1662 1869"> <tr> <td>日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>おうちの人より</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		日					おうちの人より				
	日												
おうちの人より													
<p>こだわりのもの以外に集中できる活動を設定する。</p>	<p>・目標が達成できると、シールを貼るなど、子どもが意欲をもつことができるように工夫する。                  ・子ども、保護者、指導者が目標を共通理解して進めることができるように工夫する。                  ・学習予定表と組み合わせると、どの時間にかんばることができたのか振り返ることができる。</p>												
<p>偏食については、単なる好き嫌いなのか感覚・知覚によるものなのかを見極め、無理強いせず少しずつ食べられる物の幅を広げていくようにする。周りの子どもたちにも説明し、「特別扱い」にならないようにする。</p>	<p>おうちの人より</p>												

支援例 34 については、カード例をファイルで載せています。

個別の指導計画 支援方法の具体例（自分をコントロールすることでの課題）

指導者の姿勢	具体的な支援	指導者の姿勢	具体的な支援
指示の出し方の工夫	<p>注意を十分にひきつけてから指示を出す。（手を叩く、笛や鈴などを鳴らす、静かにする、電灯を消す、さりげなく子どものそばに立って、子どもの肩などに手を置きながら、など）</p> <p>短くゆっくり話す。（一度に複数の指示を出さない。一文一動詞で。）</p> <p>話の見通しをもたせるためにあらかじめ要点を話す。</p> <p>大事なことは繰り返し話す。</p> <p>語調に変化をつける。（声の大きさ、抑揚、スピード、間の取り方）</p> <p>抽象語（あっち、こっち、たくさん、あと少し、だいたい、ちゃんと など）を少なくし、具体的に（時計の針が〇まで、あと〇個・〇回等）話す。</p> <p>否定ではなく、肯定的な表現で話す。（廊下ははしらない。」ではなく「廊下は歩こう。」、「～できなかったら、～しない。」ではなく「～したら、～しよう。」）</p> <p>名前を呼んだり、声掛けをしたり、アイコンタクトをとりながら注意をひきつけて話す。</p> <p>質問の追い込みを避ける。（「いま、何の時間ですか！」ではなく「〇〇の時間です。」「〇〇をします。」）</p> <p>はっきりわかりやすく視覚で提示する。（短い言葉、箇条書き、絵や図、カード）【(人とのコミュニケーション)例16)】</p> <p>教科によって板書の使い方や板書の色の約束を統一する。【(学習)例6】</p> <p>全体に指示を出した後、個別に理解できているかを確認する。</p> <p>課題の手順、作業の終了、約束事、必要な物などについて文字や絵などで示したり、リストを作成したりする。【例28】</p>	導入の工夫をする	<p>興味をひく導入を工夫する。（前時の学習内容の〇×クイズ、テンポのよい発問、フラッシュカードなどで復習する。）</p> <p>集中するゲームを取り入れる。【例36】</p> <p>始まりや活動の変わり目の合図をはっきりさせる。（サイン・音楽・フラッシュカードなど）</p> <p>静→動→静の流れを入れる（授業の山場を作る）ようにする。</p> <p>活動の間に気分を切り替えられるような時間を設定する。（配り係や黒板消し係のように動いてもよい場面を作るなど。）</p>
聞く姿勢がとれるようにする	<p>視線を合わせる。</p> <p>言葉掛けをする。【(人とのコミュニケーション)例14】</p> <p>メモをとるようにし、メモをなくさないように置き場所を決めて確認する。</p>	課題が達成できるようにする	<p>達成可能な問題数を設定する。（できたという成功体験を積み重ねられるようにする。）</p> <p>課題ができたなら褒め、次への意欲付けを行う。</p> <p>課題の提出期間を長くしたり短くしたりして調節する。</p> <p>やることをカードや表に書き、できたらシールを貼るなどして目に見える形で達成できたことが実感できるようにする。【例28】</p> <p>達成できたら、楽しいこと（好きな遊びができる、休憩ができる、など）ができるようにする。</p> <p>楽しいことができるための約束（取り決め）確認する。（人とのコミュニケーション【例24】）</p> <p>テストは集中しやすい環境と十分な時間を与えるようにする。（場合によっては個別に行う。）</p> <p>テストの解答においては、許容度を広げるようにする。（漢字のとめ、はねなど）</p>
見通しをもつことができるようにする	<p>授業の流れを示し、見通しをもつことができるようにする。（いま、何をやるのか明らかにする。）【例29】</p> <p>集会などでは、内容を前もって伝えておくようにする。</p> <p>時計やタイマーを使用し、「この時間まで。」「あと〇分。」と予告する。【例30】</p> <p>準備・片づけの時間を設定する。</p> <p>予定を変更する場合は直前になって知らせるのではなく、事前に伝え、変更後の予定を視覚的に確認できるように明示する。（どうしても急な変更があったときは謝罪のことがばがあると納得しやすい）【例31】</p>	休憩時間を活用する	休憩時間を活用する
学習準備ができるようにする	<p>予定表を使って学習の見通しをもつことができるようにする。【例32】</p> <p>適切な声掛けをしたり保護者との連携をとったりして忘れ物や無くし物がないようにする。</p> <p>必要最低限のものだけ持たせるようにする。</p> <p>自分の物と他人の物の区別がつくように、シールや目印、名前などを必ずつけるようにする。</p> <p>連絡帳やメモを活用して、持ち物や連絡事項などを自分で確認する習慣をつける。</p> <p>忘れ物がなかったときは褒める。</p> <p>学習用具の机上準備の仕方を図（絵や写真）で示したり、準備のタイミングを合図で知らせたりする。【例33】</p> <p>課題のどこから始めるのか、どこまで終わったのかをわかりやすくするために、付箋紙やシールを貼ったりするなどの目印をつける。</p>	情報を共有・連携する	<p>教職員間で児童の様子や指導について情報交換をする。</p> <p>保護者と連携を密にとり、支援について一緒に考えるようにする。</p>
危険についての指導	<p>危険につながることを繰り返し教える。</p> <p>ルールの中には、絶対に守らなければならないものと大目に見てもよいものがあることを教える。（絶対にしてはいけないこと例：人を傷つけることなど、礼節例：食卓のマナーなど、大目に見てもよいこと例：文化・社会の中の規範）</p> <p>できるだけ環境を整える。（危険なもの周りに置かない。）</p>	普段から心掛ける	<p>自分から進んで行動したときや、小さな成功や当たり前前のことであったとしても、適切な行動（いすに座っている、大声を出さないなど）をしたときには、褒めたり全体に紹介したりする。</p> <p>他の子どもたちがその子の特性を理解できるように工夫して伝える。【例37】</p> <p>常に子どもの言動の理由を考えるようにする。</p>
整理整頓ができるようにする	<p>子どもが整理整頓できるように箱やラベルを活用し、何をどこへしまえばよいか一目瞭然になるようにする。【例34】</p> <p>かばんや体操服の置き場所など、クラス全員が同じになるようにルールを決める。</p>	支援例	<p>【例28】作業の手順をカードで示す例</p> <p>【例29】単元の学習の進め方や一時間の学習の進め方を示す例</p>
待つ姿勢を心掛けるようにする	<p>机や椅子の周りを整理整頓しておく。（指導机も整理整頓しておく。）</p> <p>机や椅子の高さが合っているか確認する。</p> <p>作業がしやすいように大きめの机を用意したり、立って作業ができる場所を設置したりする。</p> <p>安定する座席の位置にする。（窓際は気が散りやすい、前方は指導者の指示が届きやすい、2列目は前の席の子どもの模範にしやすい、相性のよい子の近くに、など、子どもによって配慮する。）</p> <p>掲示物を整える。（気が散りやすいと感じたら、なるべくシンプルにしたり、後ろに貼ったりする。）</p> <p>黒板を整える。日付や今日の予定以外のものは書いておかない、色とりどりのマグネットやカード類は貼っておかない、必要に応じて補助黒板を利用するなど。）</p> <p>生き物などは目に入ると気が散りやすいのでなるべく遠くに置く。</p> <p>時計や表示などを子どもが見やすい位置に設置する。</p> <p>活動を妨げるような音を出さないように配慮をする。</p> <p>カーテンをひくなどして刺激を調節する。</p> <p>学習しやすいような温度、湿度になるようにする。</p> <p>集中するときのサインを決める。【例35】</p> <p>視線を合わせるようにする。</p> <p>適宜声掛けをするようにする。</p> <p>活動をやり終えるまで見守るようにする。</p>	環境整備をする	<p>【例30】終わりの時間を示す例</p> <p>【例31】変更を知らせる例</p> <p>【例32】一日の予定を示す例</p> <p>【例33】学習の準備の仕方を示す例</p> <p>【例34】片づけ方の見本カードの例</p> <p>【例35】集中するための合図を出す例</p> <p>【例36】集中するゲームの例</p> <p>【例37】</p>



カードは、クリップやせんたくばさみなどでとめ、はずせるようにする。  
 手順を書いたカードを、一枚ずつ吊り下げ、できたら取り外していくようにする。ハンガーのようにとつてがあると、教科によって持ち運べたり、机の側にかけてたりできる。

**学習すること**

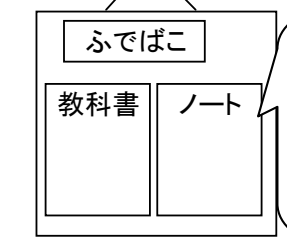
- ①みんなで読む
- ②考えを書く ○時まで
- ③友だちにつたえる
- ④みんなで読む

**お知らせ**  
 きょうは、〇時間目に〇〇へ行きます。  
 持ち物は、〇〇です。  
 終わる時間は、〇〇時です。  
 少し、おくれることもあります。

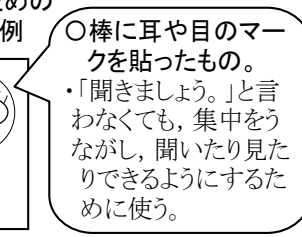
いま、どの学習をしているかがわかるように印をつける。

【例36】集中するゲームの例  
 ○「ステレオゲーム」  
 ・ゲーム後に、集中して聞くための工夫について話し合い、日常の「聞き方」に活かすようにする。

【例37】  
 ○学級の中に次のことが浸透しているようにする。  
 ・だれにでも得意、苦手、不得意なことがあること  
 ・困ったときは、「助けて。」と言ってもよいこと  
 ・困ったときに必要な事柄が人それぞれ違うこと  
 ☆支援の必要な子どものことだけを伝えていくのではなく、授業や生活の様々な機会に、「違いがあつて当たり前」と思える心を学級全体に育てる。



学習用具（教科書、数図ブロック、習字の用具などの写真をカードにしておくと、置き方を視覚的にわかりやすく提示することができる。



○棒に耳や目のマークを貼ったもの。  
 ・「聞きましょう。」と言わなくても、集中をうながし、聞いたり見たりできるようにするために使う。

